



歯科医・彌勒寺寛之の 視界良好!

第8回 インプラントのススメ②

前回から続き今回は、歯科治療の寿命についてお話しします。

「歯医者も知らなかった、今の歯科治療の寿命とは」
あなたが、入れ歯やブリッジの治療の現実を知らないことは、とても危険なことだと言えます。まずは、失った歯を回復させるための入れ歯やブリッジから説明しましょう。

歯科医院で痛い歯の治療が終わり、銀歯や入れ歯をつくる段階になると、患者さんから私へ次のような質問がよくあります。

「この歯はどのくらいもちますか？」

この質問が意味することは、次のようなことだと思います。

- ・ただ単に、どのくらいの期間使えるのか
- ・保険の歯だと、どのくらいの期間使えるのか
- ・保険外の歯にすると、もっと長い期間使えるのか

これらの質問に対して、私には明確な答えがあります。保険の治療法で治した歯の寿命について考えてみるのです。

保険の治療法で作られた銀歯が何らかの理由により、その50%がダメになる年数は次の通りです。

<銀歯の詰め物>・・・約5年

<銀歯のかぶせ物>・・・約7年

<欠損した歯の前後の歯を削り、それを土台として作られた固定式の銀歯＝ブリッジ>・・・約7年半

では、入れ歯についてはどうでしょうか？

新しく入れ歯を作っても、何らかの理由により30%の患者さんが入れ歯を使わなくなる平均年数は3年。同様に50%の患者さんが入れ歯を使わなくなる平均年数は5年。部分入れ歯を入れたことにより、入れ歯のバネをかけている歯のむし歯発生率は4年で93%。

え～、こんなに早い～？ とびっくりしませんでしたか？
かぶせものの中には1本数万円もする高価なものもあります。いくら高価でもブリッジである以上、寿命はそんなにかわりません。そして、私がブリッジをおすすめしたくない理由は寿命が短いからだけではありません。それは、ブリッジがダメになる時、両隣の歯も含めて、最低2本以上の歯が失われるからです。高いお金をかけたのに、たった7年くらいでダメになってしまうなんて本当にもったいないことです！ しかも、土台に使った2本以上の歯をいっぺんに抜かなければならないなんて、これを治療といえるのか私には疑問です。

ほとんどの患者さんは治療を終えた時、この歯はこのまま一生使うことができると信じています。しかし、10年もたたずにダメになっているというのが、現在の歯科治療の現実なのです。

私だけでなく歯科医師なら誰でも、歯の治療を通して常に患者さんの健康を第一に考えています。ところが、私たち歯科医師が当たり前のように学んできた治療方法自体に問題があったなんて、一体どれだけの歯科医師が気づいていることでしょうか？

もう一度確認しましょう。

ブリッジは7年半しかもたず、ダメになった時2本以上の歯を一度に失う！ さらに、私は総入れ歯も決してすすめることはありません。総入れ歯はしゃべりづらいし、噛みづらい、口の中に入れていなくても違和感が大きい、そして取り外しをしなければならない…等等など、不満をあげたらきりがありません。

しかし、悪い所はこれだけではないのです。

今回は具体的に入れ歯の問題点についてお話ししたいと思います。



～著者プロフィール～

みろ歯科院長（2012年10月1日新規開院） 彌勒寺 寛之（みろくじ ひろゆき）

住 所 宇都宮市中央2-4-8 T E L 0120-814-364 (URL) <http://tda86.com>

所属学会

日本口腔インプラント学会 日本歯科審美学会 日本歯周病学会

日本小児歯科学会 日本ヘルスケア歯科研究会

※学会で得た知識を活かして、個人的に無料相談室を開設しました。

お口のことで疑問に思っていることなどがありましたら、お気軽にご相談下さい。当クリニックのホームページからメールで受け付けています。

（この無料相談室は予告なく終了することがありますので、ご了承下さい。）

